XV 過去の表現 1

1.2つの時制の区別

○ドイツ語では、過去のことを表現するのに、「過去形(Präteritum/ Vergangenheitsform)」と「現在完了形(Perfekt)」の2種類が主に使われます(「過去完了形」もありますが、これは1年次では学びません)。

○日常会話では基本的に「現在完了形」が使われます。これは、「きのう」とか「昨年」のように、 時間を確定した場合でもそうです(英語の場合には過去形になる)。

Ich habe gestern Tennis gespielt. 私はきのうテニスをした。

(I played tennis yesterday.)

○ただし、sein と haben および助動詞については、「過去形」が好まれる傾向にあります(地方差はあるものの、テレビや新聞などのメディアで使われるスタンダードドイツ語でも認められる傾向です)。

Ich war am Sonntag im Konzert. 私は日曜日にコンサートに行ってきた。

Früher hatte ich viele Autos. 以前, 私は車をたくさん持っていた。

Ich musste lange vor dem Eingang warten. ずっと入口前で待たなければならなかった。

- ○それでは、過去形は何のためにあるかと言えば、主に**小説や報告書などのモノローグ(独白)的語り/文体**として使われます。
- 〇これに対して、**現在完了形**は、日常会話などのディアローグ(対話)的な語り/文体だと言えます。
- ○よく誤解して,過去形は古い昔のこと,現在完了形は最近のこと,と間違えて覚えてしまう人がいます。
- ○2 つの時制の違いは、時間の開きではありません。過去形と現在完了形を区別する特徴のもうひとつは、もう完結してしまって自分と関係ない出来事だというスタンスだと過去形になり、今の自分とまだつながりがある出来事だと意識すると現在完了形になる、という点です。詳しくはまた Lektion 15 で。

2. 過去形

- ○過去形を作るには、「動詞の三基本形」のうちの2番目、「過去基本形」を使います。
- ○わざわざ「基本形」と断りが入るのは、基本形をもとにした変化形があるからで、皆さんのお察 しの通り、(助動詞でも人称変化するくらいですから) 過去形でも人称変化があるのです。
- ○とはいえ、まったく新規の変化というわけではありません。過去形の変化で気をつける必要があるのは、ich と er/sie/es で語尾がないということだけで、他の人称では現在人称変化と同じです。

練習1 過去形の人称変化をチェック!

sein — $\operatorname{\mathbf{war}}$			${\tt haben} {\color{red}} {\color{blue} hatte}$			$\mathrm{werden} - \mathbf{wurde}$			
ich		wir	ich _		wir _	 ich		wir	
du		ihr	du _		ihr _	 du		ihr	
er		sie	er _		sie _	 er		sie	
		Sie			Sie _			Sie	

基礎	ドイ	ツ語	Ι
おさ	らい	ノー	1
年	J	1	日

können — konnte			müssen	- musste	dürfen — durfte		
ich _		wir	ich	wir	ich	wir	
du _		ihr	du	ihr	du	ihr	
er _		sie	er	sie	er	sie	
		Sie		Sie		Sie	

解答 sein: ich war, du warst, er war, wir waren, ihr wart, sie/Sie waren; haben: ich hatte, du hattest, er hatte, wir hatten, ihr hattet, sie/Sie hatten; werden: ich wurde, du wurdest, er wurde, wir wurden, ihr wurdet, sie/Sie wurden können: ich konnte, du konntest, er konnte, wir konnten, ihr konntet, sie/Sie konnten müssen: ich musste, du musstest, er musste, wir mussten, ihr musstet, sie/Sie mussten dürfen: ich durfte, du durftest, er durfte, wir durften, ihr durftet, sie/Sie durften

練習2 次の文章を過去形に下線を引きながら読んでみよう。

Die Königin war sehr stolz und übermütig. Sie hatte einen Spiegel, der hatte eine Zauberkraft: Er erzählte nur die Wahrheit. Die Frau fragte den Spiegel:

"Spieglein, Spieglein an der Wand, 小さな鏡よ壁の小さな鏡, wer ist die schönste im ganzen Land?" 国中で一番美しいのはだれ? Da antwortete der Spiegel:

"Frau Königin, Ihr seid die schönste hier, 女王様, ここではあなた様が一番美しい, aber Sneewittchen ist tausendmal schöner als Ihr. "だが白雪姫はあなた様より千倍も美しい。 Die Königin erschrak und wurde vor Neid gelb und grün. So hasste sie das Mädchen.

語句 die Königin, -nen: 女王 stolz: 誇り高い übermütig: 傲慢な der Spiegel, -: 鏡 der hatte ... = der Spiegel hatte ... die Zauberkraft, ...kräfte: 魔法の力 erzählen: 物語る, 話すnur: …だけ die Wahrheit, -en: 真実 fragen: …4 に尋ねる da: そこで antworten: 答える erschrak < erschrecken: 驚く vor Neid: 嫉妬のあまり gelb: 黄色い grün: 緑色の hassen: 憎むdas Mädchen, -: 少女 [ここでは白雪姫]

訳 女王はとても誇り高く高慢でした。彼女は鏡を持っていて、 それは魔法の力を持っていました。鏡はただ真実だけを語ったの です。その女は鏡に尋ねました。[…] そこで鏡は答えました。[…] 女王は驚き、嫉妬のあまり黄色と緑になりました。それほどまで に彼女はその少女を憎んでいました。



解説 ごぞんじ、「白雪姫(Sneewittchen)」の一節です(グリムでの綴りは Sneewittchen。一般的な綴りは Schneewittchen です)。地の文は、学習者向けに書き換えていますが、台詞の部分はオリジナルのままです。 韻を踏んでいて、とてもリズムのいいセリフです。また、鏡が女王に"Ihr"と言っているのは、ここでは「君たち」という意味ではなく、今は使われなくなった古い時代の2人称に対する敬語表現です。後半部の地の文で、嫉妬のあまり「黄色と緑に(gelb und grün)」なったという表現も、オリジナルのものです。

過去形は順番に, war / hatte / hatte / erzählte / fragte / antwortete / erschrak / wurde / hasste です。